

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
 担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道4号 ^{つくだて} 築館バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：宮城県栗原市築館赤坂 至：宮城県栗原市築館城生野			延長	6.4 km	
事業概要	一般国道4号は、東京都中央区から青森市までの福島市、仙台市、盛岡市等の東北地方の主要都市を結ぶ、延長約836.4kmの主要幹線道路である。 築館バイパスは、宮城県栗原市内を通過する延長6.4kmの2～4車線道路である。					
S58年度事業化	S56年度都市計画決定 (H23年度、令和4年度変更)	H7年度用地着手	H13年度工事着手			
全体事業費	約180億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約52%	供用済延長	3.8 km(暫定)	
計画交通量	12,000台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	1.01 (事業全体)	84/275億円		118/278億円		令和4年
	1.4 (残事業)	事業費：64/237億円 維持管理費：20/38億円		走行時間短縮便益：89/223億円 走行経費減少便益：19/41億円 交通事故減少便益：8.9/14億円		
感度分析の結果	【事業全体】交通量変動：B/C=0.95～1.1（交通量±10%） 【残事業】B/C=1.2～1.6（交通量±10%） 事業費変動：B/C=0.99～1.03（事業費±10%） B/C=1.3～1.5（事業費±10%） 事業期間変動：B/C=0.9～1.1（事業期間±20%） B/C=1.3～1.5（事業期間±20%）					
事業の効果等	①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間及び削減率 （渋滞損失時間：28.6万人・時間/年、渋滞損失削減率：約8割削減） ②安全で安心できるくらしの確保 ・栗原市（金成地区）から大崎市民病院（大崎市）へのアクセス性が向上（現況53分→整備後49分） ③災害への備え ・宮城県緊急輸送道路ネットワーク計画において、国道4号が「第一次緊急輸送道路」に指定 他7項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	○宮城県知事の意見 「対応方針（原案）」のとおり「継続」で異議ありません。 一般国道4号は、東日本の縦の大動脈として東北全域の産業経済活動や地域間交流を支える、極めて重要な役割を担う幹線道路であり、東日本大震災においては、並行する東北縦貫自動車道とともに、被災地への支援活動にも大きな役割を果たした。 評価対象の「築館バイパス」は、栗原市街地を通過する国道4号の慢性的な渋滞解消を図る事業であり、さらに、医療施設へのアクセス性向上や物流の効率化などに寄与することから、一日も早い完成が待たれるとともに、本県の重点施策である「防災道路ネットワークの構築」さらに「富県躍進」の実現に向けて非常に重要な道路である。 今回の評価は、社会情勢の変化に伴う変更を踏まえた内容となっており、事業継続は妥当であると考えられるため、対応方針（原案）に対し、「異議なし」とする。 今後も、コスト縮減にも最大限配慮しながら、一日も早い完成に向けて、事業を推進していただきたい。					

○以下の団体等から、「築館バイパス」の整備促進について要望あり

- ・宮城県（宮城県知事）
- ・栗原市（栗原市長）
- ・一般国道4号築館バイパス整備促進期成同盟会（栗原市長）
- ・国道4号拡幅改良（4車線）建設促進期成同盟会（大崎市長） 他

事業評価監視委員会の意見

- ・対応方針（原案）の事業継続は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・昭和58年度新規事業化、用地進捗率約70%、事業進捗率約52%（令和4年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない。

施設の構造や工法の変更等

- ・側道を設置し横断函渠を集約することにより、コスト縮減を図っている。

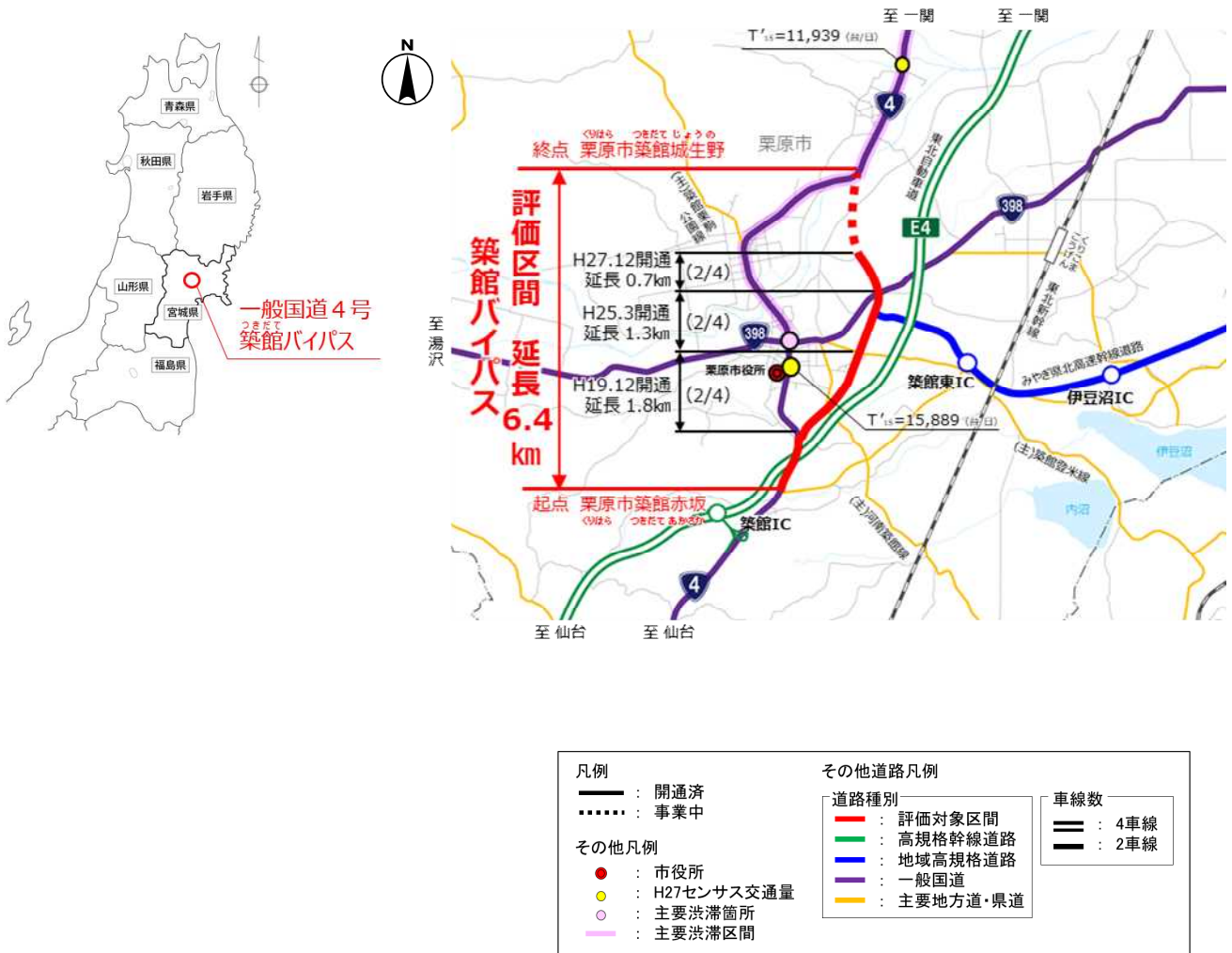
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・国道4号における交通混雑の緩和、交通安全の確保、救急搬送の効率化、生活道路の安全性向上等のため、早期整備の必要性が高い。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。